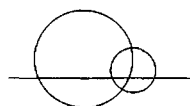


〈諸事項の報告・紹介〉



## 記念センターに蔵居文庫完成

～ 寄贈者の蔵居淳氏、記念センターを訪問 ～

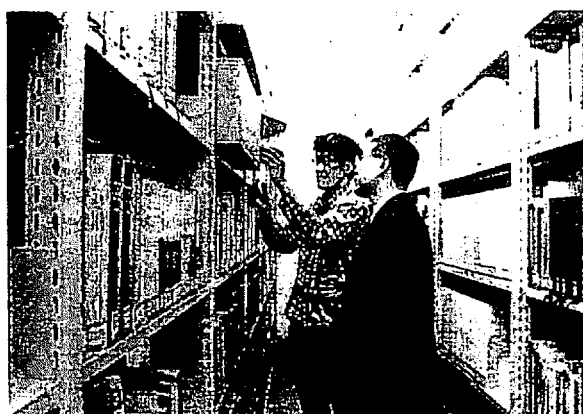
東亜同文書院大学記念センター ポストドクター 武井義和

4月18日（土）、東亜同文書院卒業生の故蔵居良造氏の血縁者に当たる蔵居淳氏（東京在住。以下、「蔵居氏」と表記）が記念センターを訪問された。良造氏は東亜同文書院を1932（昭和7）年に卒業後、朝日新聞社に就職し、戦後は論説委員などを務めた方であるが、生前に読まれた膨大な量の書籍が蔵書として、出身地である熊本県のご実家に保存されていた。2007（平成19）年8月、これらの図書が蔵居氏により東亜同文書院大学記念センターに寄贈され、藤田佳久記念センター長、図書整理担当の豊田信介氏、武井の3名がご実家まで出向いて、書籍を100箱近くに及ぶ段ボール箱に梱包し、記念センターに発送する作業を行った。以後約2年にわたり、スタッフの豊田氏によりデータベース構築のための図書登録作業を中心として、分類作業とともに配架作業が継続して行なわれてきた。この度、それらの作業が完了したことから、蔵居氏をお招きして図書整理の現状をご覧頂いたものである。

蔵居氏のご希望もあり、記念センターではこの蔵書を「蔵居文庫」と呼称しているが、豊田氏によれば蔵居文庫の内訳は図書2,973冊、雑誌75タ

イトルで、全体の9割以上を和書・和雑誌が占めている。第二次大戦後の出版物（主に1950～80年代）が中心だが、2～3割程度を占める戦前の出版物の中には、現在では入手困難なものも少なからず見受けられるそうである。また、特徴的な蔵書として朝日新聞関係（社史や同社刊行物、所属記者の著作物など）やアジア政経学会の刊行物、ヘディンの西域探検関係などが挙げられるとのことである。

この蔵居文庫整備のために記念センターに高額の寄付金を贈呈下さった蔵居氏は、18日午前には愛知大学に到着、出迎えた藤田佳久記念センター長とともに名和聖高副学長を訪れ、1時間近く懇談した後に、記念センターへ移動して豊田氏の説明を聞きながら蔵居文庫をご覧になった。なお、豊田氏作成の『蔵居良造氏寄贈図書（蔵居文庫）リスト』も豊田氏本人から蔵居氏に手渡された。蔵居氏は整備状況に大変満足された様子であった。現在、蔵居文庫を含む記念センター所蔵図書はまだ公開できる段階にないが、学内外への公開が可能になった時には、蔵居文庫が多くの人に読まれ、また研究に活用されることを望みたい。



# 書院生によるフルンポイルに関する調査報告書について

坂 雄

- I フルンポイル地域について
- II 書院生によるフルンポイルにおける調査旅行
- III 調査報告書について
- IV まとめ

## 名前の由来

- フルンポイル(呼倫貝爾)
- フルン(呼倫)湖
- ポイル(貝爾)湖
- ホロンバイル・コロンバイルなどの表記

## 歴史

- 遊牧に最適な草原地帯であり、東胡、匈奴、鮮卑、室韋、契丹、タタル、女真など、古来これらの遊牧民族の居住地



- チンギス・ハーンがモンゴル諸部を統一した後、モンゴル草原において「領土分封制」を実施し、次男のハサルにフルンポイルを領地として割り当てた

- 17世紀、清朝によるモンゴルの征服
- 「盟旗制度(めいせいど)」の実施
- モンゴル地域を内外モンゴルと分けた

